

計 量 史 通 信

Communications in Historical Metrology No. 87

計量史をさぐる会 2022 を開催

2022年10月28日（金）、あがたの森文化会館・東洋計量史資料館で

日本計量史学会（山田研治会長）は計測自動制御学会力学量計測部会と共催で、毎年開催していた「計量史をさぐる会 2022」を、2022年10月28日（金）、長野県松本市のあがたの森文化会館2階2-2号室・東洋計量史資料館で、3年ぶりに32名の参加で開催した。

協賛は、日本計量振興協会、後援は、日本計量新報社。

■プログラム

I. 開会式 13時00分～13時20分（司会：溝口義浩事務局長）

- | | |
|--------|--|
| 会長挨拶 | 当学会会長 山田研治 |
| 主管会長挨拶 | 当学会副会長（東洋計量史資料館館長） 土田泰秀 |
| 来賓挨拶 | 松本市教育委員会教育長 伊佐治裕子
（代理 松本市博物館館長 木下守） |
| 来賓挨拶 | 長野県計量協会会長 長坂宏
（代理 長野県計量協会監事 小川博） |



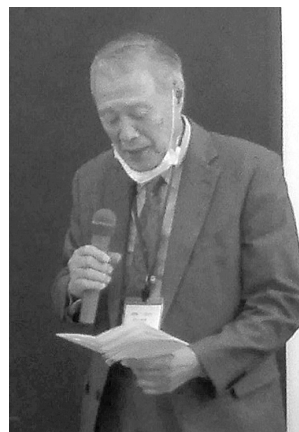
山田会長



土田副会長



木下松本市博物館館長



小川長野県計量協会幹事

II. 講演及び研究発表会 13時20分～16時00分（司会：山崎敬則監事）

第1部 講演会

1. 「年縞展」と「山本コレクション」：東洋計量史資料館館長 土田泰秀
2. 「二宮金次郎の生涯の足跡を辿って」：日本計量史学会副会長 黒須茂

第2部 研究発表（3. 4. は紙上発表）

1. 岩崎 博：「古典的円周率計算法」
2. 雨宮高久、市毛幸太郎、田中啓介：
「日本と欧米の物理学教科書における運動の第2法則と「力の絶対単位」の比較」
3. 小川實吉：「計量トレーサビリティの草創 - 産業計測標準委員会の活動 -」
4. 山田研治：「佐藤政養と度量衡」

第3部 見学会 16時20分～17時00分 東洋計量史資料館見学

■第1部 講演は2題

司会は山崎敬則監事。

はじめに、東洋計量史資料館館長の土田泰秀氏が「年縞展」と「山本コレクション」の演題で講演された。土田館長は、①「年縞と計量は文明の母 特別展」第1～10パネル②「山本コレクション」の紹介を説明された。

令和元年8月20日より、東洋計量史資料館で「年縞と計量は文明の母特別展」を開催されている。

福井県は、14億8千万円の巨費を投じて、平成30年「年縞博物館」を三方五湖の一つである水月湖畔に建設した。この特別館長が山根一眞氏で、同氏は著名なルポライターである。山根氏とは、ある雑誌社の企画



で対談して以来、交流を頂いている。山根氏の協力要請があり、「年縞博物館」へ東洋計量史資料館より秦の始皇帝時代の分銅の完全複製品や、京枰、両替天秤など5点を寄贈した。この後、山根氏の支援を得て、「年縞」の一部を東洋計量史資料館で展示できる幸運に恵まれた。

展示されている「年縞」は、福井国体の折に、平成天皇・皇后両陛下がご覧になられたものと同時代の貴重なものである。今回の展示を機に、7万年の地球や人類の歴史と、岩田重雄博士論文集「計量は文明の母である」の内容を紹介された。

また、平成7（1995）年、長野県中条村（現長野市中条）に「はかりの館」が開設された。共栄測量設計社創始者である山本幸雄氏の手によるものである。山本氏は長野県経済部耕地課に勤務し、測量に出会う。測量が天職であると悟り、昭和37（1962）年に測量専門会社を設立し、測量分野で多くの業績を残された。「人の持たないものを持って」「常に新しい可能性を求めよ」を口癖とし、世界屈指の精密測距儀の購入や、日本初の高精度面積測定機などの共同開発をしている。山本氏は、自ら調達し開発し使用して来た多くの測量に関わる機器類を大切に保存し、それらを展示するため「はかりの館」を作られた。縁あって東洋計量史資料館が、主要展示品を引き継ぐこととなった。その主な見どころを紹介された。

2題目は、日本計量史学会副会長の黒須茂氏が「二宮金次郎の足跡を辿って」の演題で講演された。黒須氏は二宮金次郎の実像に迫りたいと思っており、地元茨城県の下館筑西報徳壹圓塾に入会して

3年が経過した。

発表者らの年代では、薪を背負いながら読書する二宮金次郎像を小学校の校庭で毎日のように見たものである。明治以降、国の富国強兵政策に利用され、勤勉、親孝行の手本として「修身」の国定教科書に登場し、文部省の唱歌にも「手本は二宮金次郎」と唄われ神格化されていった。戦後の民主教育のもとに全国の小学校の校庭からその姿を消し、半世紀以上が経ち、その少年像が再び地元の言志によって復活しつつある。

発表者は所属する地元の下館筑西報徳壹圓塾が小学生を対象に作成した教育用の紙芝居「二宮金次郎の生涯」口演を手伝うことになり、何度か口演を経験させてもらった。しかし、口演する筆者自身が「金次郎とは何をした人なのか」が怪しければ、小学生の前で馬脚を現すことになりうる。本稿では、二宮金次郎の実像を今までに出版された数多くの伝記、研究報告、解説から辿って、「金次郎とは何をした人なのか」を史実と創作とから食い違いを明らかにしたいと考えた。そこで今回はこの口演を紙芝居にて実演された。



■第3部 研究発表

司会は山崎敬則監事。研究発表は2題。

最初に、岩崎博氏が「古典的円周率計算法」を発表した。

発表概要は次のとおり。①はじめに②アルキメデスと劉徽、祖沖之の円周率③ヴェルトの円周率とエクセル計算 v. 10 ④おわりに

内容は、『古典的円周率計算法』私家版、(2003)として、古典的円周率計算法を手計算で行い、エクセルやカルキング v. 6で検証し纏めた冊子の中から、あらためて、その歴史を踏まえ要点等について解説したものである。

2題目は、雨宮高久氏が「日本と欧米の物理学教科書における運動の第2法則と「力の絶対単位」の比較」を発表した。発表概要は次のとおり。①背景と目的②明治20年代の日本の物理教科書における「運動の第2法則」と「力の絶対単位」③欧米の物理教科書における「日本と欧米の物理学教科書における運動の第2法則と「力の絶対単位」④まとめ：日本と欧米の教科書における運動の第2法則の解釈と力の絶対単位の関係

明治20年代の欧米の物理学教科書での「運動の第2法則＝運動方程式」とする見方の定着には「ダイン」とその前提となる C. G. S. 単位系の普及が一定の影響を及ぼしていたと推察される。これに対して、日本の物理学教科書では「ダイン」や C. G. S. 単位系の存在が、欧米ほど「運動の第2法則＝運動方程式」とする見方に影響を与えていなかったように思われると結ばれている。

紙上発表

はじめに、小川實吉理事が「計量トレーサビリティの草創 - 産業計測標準委員会の活動 -」について発表した。内容は、①はじめに②産業界のトレーサビリティ活動（産業計測標準委員会の活動）・産業計測標準委員会温度部会と電気部会③おわりに。

2題目は、山田研治会長が「佐藤政養と度量衡」について発表した。

内容、①はじめに②佐藤政養の著作と度量衡③文久年間の尺度—福田理軒の尺度と政養の「新刊輿地図」④明治初年の政養の度量衡改革⑤「大蔵省度量衡改正案」政養素案と成案⑥制度局案⑦おわりに、である。

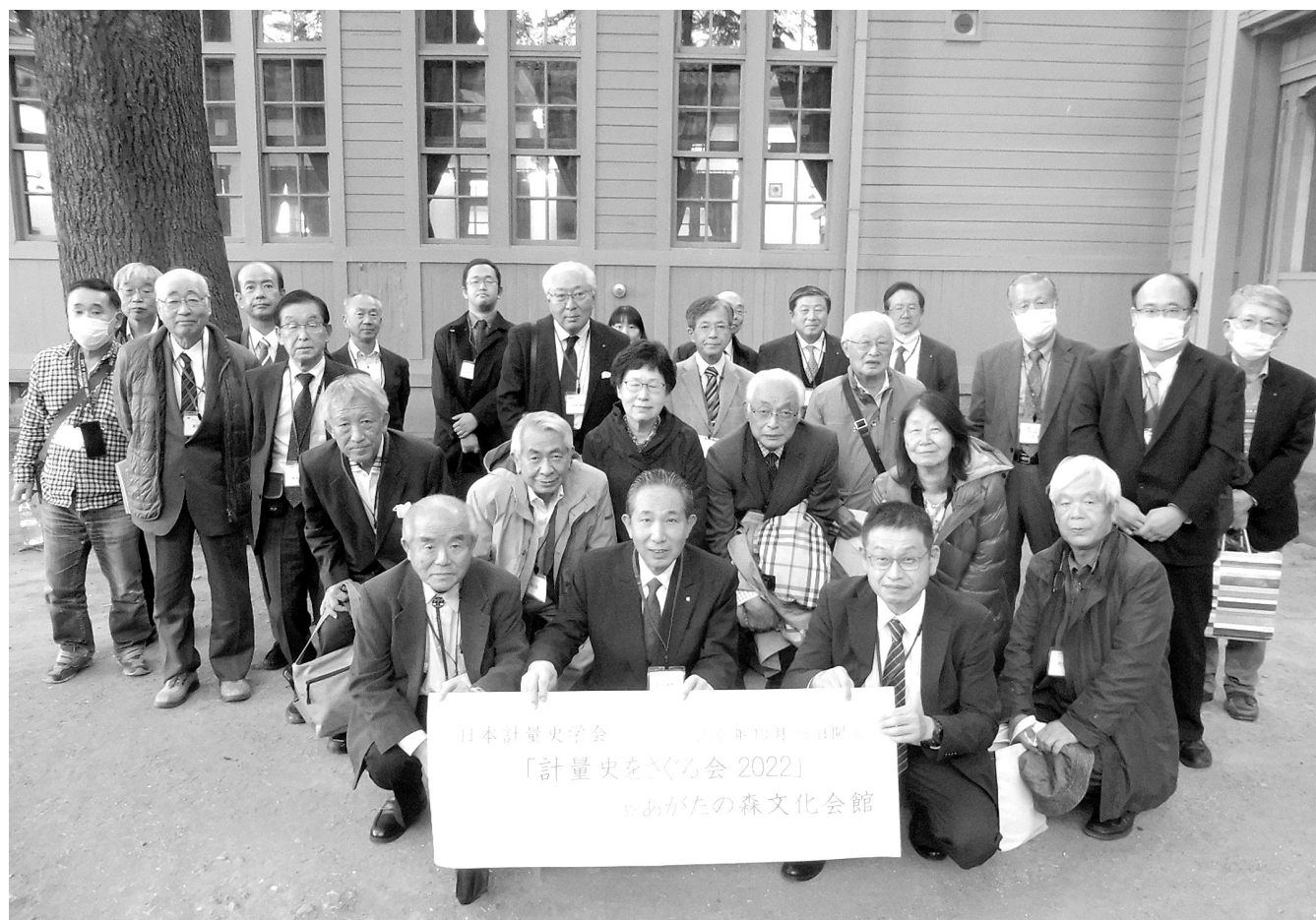
その後、東洋計量史資料館へ移動し、同館を見学した。資料館に展示されている多数の展示品の見学は大いに参考になった。

■懇親会

司会は黒須茂副会長。松本市内の「しずか」で懇親会を開催した。前田顧問の乾杯の発声で、懇親を深めた。

■オプションツアー

翌日は、希望者の参加でオプションツアーを開催し、楽しみながら有益な知識も得ることができ、好評だった。



計量史をさぐる会 2022 での記念集合写真

公 告

令和3（2021）年度決算「貸借対照表と損益計算書」及び新役員

令和4年度3月の定時総会で、決算「損益計算書・貸借対照表」と新役員人事が、可決、承認されました。後日、新会長が一身上の都合により辞任されましたので、新役員の一部変更が9月に行われました。つきましては、令和3（2021）年度決算「貸借対照表と損益計算書」及び新役員（理事・監事等）を、以下公告いたします。

I. 令和3（2021）年決算（損益計算書・貸借対照表）

損 益 計 算 書

一般社団法人 日本計量史学会 2021（令和3）年1月1日から2021（令和3）年12月31日

費 用	金 額	収 益	金 額
印刷費（計量史研究）	332,750	会費（一般会費）	595,000
印刷費（計量史通信）	57,475	会費（総会）	0
印刷費（総会）	0	会費（さぐる会）	0
印刷費（さぐる会）	0	寄付金（特別会費）	0
荷造運賃費	59,469	広告収入	0
消耗品費	30,780	頒布金収入	71,570
旅費交通費	30,000	受取利息	42
支払手数料	6,040	正味財産（損失）	292,733
通信費	76,186		
諸会費	0		
会議費（総務）	740		
会議費（総会）	3,605		
会議費（さぐる会）	0		
事務所賃借料	332,100		
校閲費	13,700		
租税公課	0		
広告宣伝費	16,500		
特別費	0		
未収金償却費	0		
合計	959,345	合計	959,345

貸借対照表

一般社団法人 日本計量史学会

2021 (令和3) 年12月31日

資 産	金 額	負債及び財産 (純資産)	金 額
普通預金 (三菱東京UFJ)	1,600,436	未収金償却引当金	16,000
普通預金 (三菱東京UFJ)	22,082	前受金	16,000
普通預金 (三菱東京UFJ)	14,551	基本財産	2,334,568
普通預金 (みずほ)	1,010		
普通預金 (ゆうちょ)	149,133		
定期預金 (三菱東京UFJ)	0		
現金	111,276		
頒布資料	0		
未収金	0		
繰り越し正味財産 (累積) *	175,347		
正味財産 (当期損失)	292,733		
合計	2,366,568	合計	2,366,568

*注意 令和4年度に累積合計「175,347+292,733=468,080」を減損処理します。従って、令和4 (2020) 年の基本財産 (正味財産) は「2,334,568-468,080=1,866,488」になります。

付記 監査報告

令和3年度決算に付き、諸帳簿、諸帳票を厳重に監査した結果、適正に処理が行われていることを報告いたします。

令和4 (2022) 年1月24日

監査 岡路正博 印略

監査 山崎敬則 印略

Ⅱ. 新役員 (名誉会員及び顧問は永年、新役員任期は令和6年3月定時総会まで)

名誉会員 蓑輪善蔵

顧問 内川恵三郎 前田親良 横田俊英 加島淳一郎 西村淳 中村邦光 中本文男
岡路正博

会長 山田研治 事務局長 溝口義浩

副会長 黒須茂 作間英一 土田泰秀

理事 新井宏 大井みさほ 松本榮壽 小川實吉 島田好昭 篠原光彦 横田茂子 高松宏之
横田貞一

監事 山崎敬則 吉田清

2023 年度定時総会ならびに研究発表会の案内

一般社団法人日本計量史学会は、次の通り 2023 年度定時総会ならびに研究発表会を開催いたします。

会員各位の出席をお願いいたします。案内状を別途お送りしますので、出欠は、同封のはがきでの回答をお願いいたします。

期日：2023 年 3 月 20 日（月）、13 時～17 時（総会・研究発表会）

会場：日本計量会館 3 階会議室（〒162 - 0837 東京都新宿区納戸町 25 - 1、電話 03 - 3268 - 4920）

2023 年度定時総会にともなう研究発表会について（公募）

令和 5 年度一般社団法人日本計量史学会定時総会では、下記の要領で、第 1 部総会、第 2 部講演、第 3 部研究発表を行います。つきましては、第 3 部研究発表会での発表者を公募いたします。

(1) 定時総会

1、定時総会日時 令和 5（2023）年 3 月 20 日（月）13：00～17 時

2、第 1 部 定時総会

第 2 部 講演会 3 件程度を予定（学会指定）

第 3 部 研究発表会 2～3 件程度（各 20 分発表、質疑 5 分程度）（公募）

(2) 講演及び研究発表の予稿集への掲載

講演者・研究発表者には、予稿集への掲載を御願しております。執筆要綱は下記の通り。

1、発表申し込み締め切り 演題（題名）とともに令和 5（2023）年 1 月 20 日までに。事務局宛メールで御願いたします。（E-mail：jimu@shm.jp）

2、予稿集執筆要綱

・ワード、A4、余白、上段 24 mm、下段 34 mm、左右 20 mm、1 段組、46 字 × 40 行、

・フォント、（表題・氏名）MS 明朝 pt. 14.0、（本文）MS 明朝、pt. 10.5

・8～10 頁程度で御願いたします。8 頁未満でも可。

3、予稿集原稿締め切り、令和 5（2023）年 2 月 10 日必着。印字原稿 2 部、ワードで電子メール（jimu@shm.jp）か、ワードで USB メモリーを同封の上郵送で、事務局へ御願いたします。

一般社団法人日本計量史学会

〒162 - 0837 東京都新宿区納戸町 25 - 1

（追記）なお、「計量史研究」（12 月刊）への掲載を希望される方は、英文 Abstract（200 字程度）、英文 Keywords（10 語程度）を、pt. 9 で添付していただくと幸甚です。ただし、査読があります。

目次

計量史をさぐる会 2022 を開催	1
公告 令和 3（2021）年度決算「貸借対照表と損益計算書」及び新役員	5
2023 年度定時総会ならびに研究発表会の案内	7
2023 年度定時総会にともなう研究発表会について（公募）	7

「計量史研究」の原稿を募集します

人間を中心とした「計る」という行為は人文科学・社会科学・自然科学・文化芸術に限らず、過去・現在・未来のあらゆる行動に関係があります。これらに関係ある原稿を募集しております。種別は総説・論文・書評・原典の翻訳、解説・紹介・紀行、各種資料等、長短を問いません。

編集日程は通常、以下のようになっていますので、ご協力の程をお願いいたします。

原稿受理期間 6～9月、校閲・編集期間 9～10月、印刷・校正期間 11～12月、年内配布を目標。
○現在、当学会における編集は、編集部が行っております。「計量史研究」に投稿された原稿は、主として理事及び理事選定の委員が校閲に当たります。また内容によっては、専門域に応じた他の正会員に依頼しております。

「計量史通信」の原稿を募集します

総説、随筆、速報、紀行等の計量に直接、間接関係のある博物館・資料館・美術館・図書館の催し、書評、会員の研究ないし、調査内容の紹介、会員、非会員からの質問（答は原則として通信に掲載します）、その他のニュースなどが主なものです。特に「催し物」は計画段階の漠然としたものでも結構です。締切はなく、常時受け付けます。

●複写される方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、著作権者から複写権等の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3F 学術著作権協会

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619 E-Mail: jaacc@mtb.biglobe.ne.jp

著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright clearance by the copyright owner of this publication.

<Except in the USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)

641 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

Phone 81-3-3475-5618 FAX: 81-3-3475-5619 E-mail: jaacc@mtb.biglobe.ne.jp

<In The USA>

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA

Phone: (978) 750-8400, FAX: (978) 750-4744 <http://www.copyright.com/>

2022年12月20日発行
一般社団法人日本計量史学会
〒162-0837 東京都新宿区納戸町25-1
TEL/FAX: 03-3269-7989
E-mail: jimuj@shmjj.jp
URL: <http://www.shmjj.jp>
郵便振替番号 東京 00170-9-66974

The Society of Historical Metrology.
JAPAN
25-1, Nando-cho,
Shinjyuku-ku, Tokyo 162-0837 JAPAN
TEL, FAX: +81-3-3269-7989
jimuj@shmjj.jp